

平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月2日

上場取引所 大

上場会社名 フィールズ株式会社

コード番号 2767 URL <http://www.fields.biz/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大屋 高志

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション (氏名) 畑中 英昭
室長

TEL 03-5784-2111

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	43,061	△39.7	22	△99.8	106	△99.1	1,132	△82.5
23年3月期第3四半期	71,433	191.3	10,699	682.1	11,483	952.7	6,471	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 1,015百万円 (△84.4%) 23年3月期第3四半期 6,532百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	3,410.62	—
23年3月期第3四半期	19,484.24	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	61,872	46,408	74.3
23年3月期	78,971	47,021	59.2

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 45,989百万円 23年3月期 46,779百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	2,500.00	—	2,500.00	5,000.00
24年3月期	—	2,500.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	2,500.00	5,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	△3.5	14,000	6.6	14,000	2.3	8,000	6.4	24,088.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	347,000 株	23年3月期	347,000 株
24年3月期3Q	15,162 株	23年3月期	14,885 株
24年3月期3Q	332,080 株	23年3月期3Q	332,115 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.5「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・当社は、平成24年2月3日(金)に機関投資家・アナリスト向けに説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第3四半期連結累計期間（4月－12月）の概況

売上高は43,061百万円（前年同期比39.7%減）、営業利益22百万円（同99.8%減）、経常利益106百万円（同99.1%減）となりました。四半期純利益については、子会社の解散・清算に伴い第2四半期に繰延税金資産を計上したため法人税等が減少し、1,132百万円（同82.5%減）となりました。

業績の主因は以下の通りです。

当期は、東日本大震災の影響によりパチンコ・パチスロ遊技機ともに下半期重視の販売スケジュールを計画していました。しかし、懸念されていたサプライチェーン（部品供給網）が当初見通しより早い時期に回復したことを受け、当第3四半期（10月－12月）は遊技機メーカー各社からの有力タイトル投入が相次ぎました。こうした状況のもと当社では、流通という立場から持続的な集客効果へ寄与する新機種の提供時期を考慮し、第4四半期（1月－3月）に複数の大型タイトルを集中的に投入することとしました。この結果、当第3四半期連結累計期間は、パチンコ遊技機1機種、パチスロ遊技機4機種の販売となりました。

各セグメントの状況は以下の通りです。

② 当第3四半期連結累計期間のセグメント分析

[P S ・ フィールド]

当期のパチンコ・パチスロ市場を取り巻く環境は、パチンコホールでは東日本大震災に伴う電力不足の影響を受け、自主的な営業時間の短縮や輪番休業による節電を夏季に至るまで実施するなど、一時的に厳しい状況となりました。一方で、震災を契機にパチンコホールが持つ地域コミュニティ機能が再評価され、さらにパチスロ市場の力強い回復などもあって、全体では大きな影響を受けることなく推移しました。

また、遊技機メーカー各社では、半導体などの電子部品メーカーが被災し、復旧の目処が夏以降と伝えられたことから、下半期重視に販売スケジュールを変更しました。このため上半期までの遊技機販売は、震災前に部品を調達した機種が中心となり、市場全体の販売台数は例年に比べて低迷しました。ところが、サプライチェーンが当初見通しより早い時期に復旧したことから、当第3四半期は遊技機メーカー各社から有力タイトルが相次いで投入され各々が大きなヒットとなるなど、パチンコホールの新台入替が活況しました。なお、タイの洪水災害による部品不足の影響が一部ありましたが、市場全体では大きな混乱はみられませんでした。

こうした状況のもと当社では、流通という立場からパチンコホールの持続的な集客に寄与する提供時期を考慮して、大型タイトルを第3四半期から第4四半期に変更しました。

既に、第4四半期の大型タイトル第1弾として年初から投入しているパチンコ・エヴァンゲリオンシリーズ最新作「CR エヴァンゲリオン7」においては、良好な稼動が高く評価され追加受注を得るなど、マーケットの支持を広げています。

また、拡大基調を堅持するパチスロ市場の動きにあわせ、大型タイトル第2弾としてパチスロ最新作「エヴァンゲリオン～生命の鼓動～」を投入するとともに、大型タイトル第3弾としてメジャーIPを活用したパチスロ遊技機の投入を予定しています。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のP S ・ フィールドの売上高は38,023百万円（前年同期比41.0%減）、営業利益は229百万円（同97.8%減）となりました。

<当第3四半期連結累計期間の販売タイトル一覧>

パチンコ遊技機販売タイトル	発売月	
CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-	平成23年 7月	(株ビスティ製)
(CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 ~Light/Sweet Version~)	平成23年 11月	(株ビスティ製)
パチンコ遊技機 総計上台数合計	125,465 台	

パチスロ遊技機販売タイトル	発売月	
[前期継続販売] モバスロ エヴァンゲリオン~真実の翼~	平成23年 3月	(株ビスティ製)
SAMURAI 7	平成23年 5月	(株ビスティ製)
旋風の用心棒~胡蝶の記憶~	平成23年 8月	(株ロデオ製)
ラーゼフォン	平成23年 10月	(株ロデオ製)
ストリートファイターIV	平成23年 11月	(株エンターライズ製)
パチスロ遊技機 総計上台数合計	73,489 台	

(注) 計上台数には、上記タイトル以外の代行販売による販売台数を含んでいます。

[モバイル・フィールド]

国内のインターネット利用環境は、通信速度の高速化や通信アクセス網の整備を背景に、モバイル、PCともに発展を続けています。特にモバイルでは、スマートフォンやタブレット型端末の普及が本格化し、ゲーム、電子書籍といったエンタテインメント系コンテンツに一層の需要の高まりがみられます。

こうした市場環境のなか、当社は有料会員数の拡大を目指し、強みであるパチンコ・パチスロ関連コンテンツを活用したモバイルを含むオンラインサービスの拡充に加え、その他領域でも保有コンテンツを活かした新サービスの拡充に努めています。

(株)フューチャースコープおよびアイピー・ブロス(株)は、オンラインサービス分野において、パチンコ・パチスロ関連コンテンツを活用した既存提供サービスの見直しを進める一方、スマートフォン対応や新コンテンツの拡充を行うとともに、サービス品質の向上を図る投資を進めました。

今後も、成長が著しいソーシャルメディアやスマートフォン、Webメディアなどを活用したサービス提供を加速するため、経営資源を集中しオンラインサービス分野の収益性を高めていきます。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のモバイル・フィールドの売上高は1,564百万円(前年同期比1.1%増)、営業利益は41百万円(同85.6%減)となりました。

[スポーツエンタテインメント・フィールド]

当第3四半期連結累計期間は、引き続きスポーツ関連事業の経営改善を実施しました。

スポーツ分野のジャパン・スポーツ・マーケティング(株)は、平成23年8月23日付ニュースリリース「当社と子会社間での簡易吸収分割、及び子会社の特別清算に関するお知らせ」の通り、抜本的な事業再編を実施しており、当第3四半期では同社の特別清算(平成24年3月予定)に向けた諸手続きを進めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のスポーツエンタテインメント・フィールドの売上高は1,478百万円(前年同期比10.1%減)、営業損失は35百万円(前年同期は営業損失219百万円)となりました。

[その他・フィールド]

映像関連の(株)円谷プロダクションでは、ウルトラマンシリーズなど保有IPの再活性化だけでなく、新しいIPの開発などを通じて収益性を高め、ブランド価値の向上を図るための諸施策を推進しています。平成24年3月24日全国ロードショーのウルトラマンシリーズ最新映画「ウルトラマンサーガ」では、話題性の高いキャストの採用や迫力あふれる3D映像化を実現するなど、IPの活性化を図るべく新たな視点で企画・製作しています。

(株)デジタル・フロンティアは、映画やゲームをはじめ、パチンコ・パチスロ遊技機向けコンピュータ・グラフィックス(CG)制作など、各分野での映像制作事業を拡大しました。同社は、映画やゲームなどの長編CG制作の依頼増加に応える制作ラインの拡充が課題であるため、国内のみならず海外で制作ライン確保を行うべく、台湾での子会社設立やマレーシアのCG制作企業を子会社化するなど、体制強化を積極的に推進しています。

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は、設立時より大型プロジェクトとして企画・プロデュースしている平成24年2月4日全国ロードショーの劇場アニメーション「ベルセルク 黄金時代篇 I 覇王の卵」について、多様なメディアとのタイアップ企画を推進しました。

コンテンツ開発関連では、(株)小学館クリエイティブとの共同出資で設立した出版社(株)ヒーローズがコミック「月刊ヒーローズ」を平成23年11月1日に創刊し、続く2号、3号の発行も順調で、IPの創出に向け好調なスタートを切ることができました。今後、同誌のコンテンツ充実を図るとともに、パチンコ・パチスロ関連を含めた多様な分野でのクロスメディア展開を積極的に推進し、優良IPの開発・創造に必要な基盤強化に注力していきます。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のその他・フィールドの売上高は2,957百万円(前年同期比29.4%減)、営業損失は183百万円(前年同期は営業利益177百万円)となりました。

(注) 各セグメントの売上高には、内部売上高または振替高を含んでいます。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、30,955百万円と前連結会計年度末比20,095百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、10,806百万円と前連結会計年度末比716百万円の増加となりました。

無形固定資産は、4,743百万円と前連結会計年度末比326百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、15,367百万円と前連結会計年度末比2,606百万円の増加となりました。これは主に繰延税金資産の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は61,872百万円と前連結会計年度末比17,098百万円の減少となりました。

(負債)

流動負債は、11,315百万円と前連結会計年度末比16,271百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少および未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,148百万円と前連結会計年度末比214百万円の減少となりました。これは主に社債の償還によるものです。

以上の結果、負債の部は15,464百万円と前連結会計年度末比16,485百万円の減少となりました。

(純資産)

純資産の部は、46,408百万円と前連結会計年度末比613百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,821百万円減少し、13,810百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3,690百万円(前年同期は9,666百万円の収入)となりました。これは主に売上債権の減少27,694百万円、仕入債務の減少16,229百万円、法人税等の支払7,112百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3,111百万円(前年同期は3,339百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出955百万円、無形固定資産の取得による支出789百万円、有価証券の取得による支出503百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2,395百万円(前年同期は3,702百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払1,652百万円、社債の償還による支出670百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

	平成24年3月期 見通し	平成23年3月期 実績	前年同期比
売上高	100,000百万円	103,593百万円	3.5%減
営業利益	14,000百万円	13,136百万円	6.6%増
経常利益	14,000百万円	13,684百万円	2.3%増
当期純利益	8,000百万円	7,520百万円	6.4%増

当期は、前述の通り、第4四半期にパチンコ・パチスロ遊技機の大型タイトル販売を予定しています。通期連結業績見通しについては、平成23年5月12日発表の「平成23年3月期 決算短信」の通り変更ありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,873	14,020
受取手形及び売掛金	27,948	3,085
有価証券	—	500
商品及び製品	300	455
仕掛品	826	3,810
原材料及び貯蔵品	231	248
その他	6,071	8,895
貸倒引当金	△200	△61
流動資産合計	51,051	30,955
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,324	6,642
その他	3,765	4,163
有形固定資産合計	10,089	10,806
無形固定資産		
のれん	2,801	2,586
その他	2,268	2,157
無形固定資産合計	5,070	4,743
投資その他の資産		
投資有価証券	8,466	8,699
その他	4,769	7,151
貸倒引当金	△475	△483
投資その他の資産合計	12,760	15,367
固定資産合計	27,920	30,917
資産合計	78,971	61,872
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,939	2,005
1年内償還予定の社債	740	670
短期借入金	85	615
1年内返済予定の長期借入金	44	29
未払法人税等	4,217	88
賞与引当金	312	46
役員賞与引当金	220	180
返品調整引当金	—	2
その他	4,028	7,678
流動負債合計	27,587	11,315
固定負債		
社債	900	326
長期借入金	65	182
退職給付引当金	339	432
その他	3,058	3,207
固定負債合計	4,362	4,148
負債合計	31,949	15,464

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	33,443	32,915
自己株式	△1,785	△1,821
株主資本合計	47,601	47,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△822	△1,046
為替換算調整勘定	0	△1
その他の包括利益累計額合計	△821	△1,047
少数株主持分	242	419
純資産合計	47,021	46,408
負債純資産合計	78,971	61,872

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	71,433	43,061
売上原価	45,149	26,735
売上総利益	26,283	16,326
販売費及び一般管理費	15,584	16,304
営業利益	10,699	22
営業外収益		
受取利息	10	4
受取配当金	166	169
持分法による投資利益	516	—
投資有価証券運用益	5	94
その他	272	197
営業外収益合計	971	466
営業外費用		
支払利息	16	12
為替差損	20	16
持分法による投資損失	—	71
投資有価証券運用損	88	21
出資金償却	30	144
災害支援費用	—	84
その他	31	29
営業外費用合計	187	381
経常利益	11,483	106
特別利益		
関係会社株式売却益	—	7
貸倒引当金戻入額	112	—
賞与引当金戻入額	37	—
その他	13	0
特別利益合計	163	7
特別損失		
固定資産除却損	10	54
減損損失	3	23
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	142	—
訴訟関連損失	24	30
その他	58	35
特別損失合計	239	143
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	11,406	△29
法人税等	4,887	△1,271
少数株主損益調整前四半期純利益	6,519	1,242
少数株主利益	48	109
四半期純利益	6,471	1,132

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,519	1,242
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	△224
為替換算調整勘定	0	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—
その他の包括利益合計	13	△226
四半期包括利益	6,532	1,015
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,484	906
少数株主に係る四半期包括利益	48	109

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	11,406	△29
減価償却費	1,299	1,406
減損損失	3	23
のれん償却額	267	236
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△134	△127
賞与引当金の増減額（△は減少）	△252	△299
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	45	△40
退職給付引当金の増減額（△は減少）	47	55
受取利息及び受取配当金	△177	△174
仕入割引	△115	△33
持分法による投資損益（△は益）	△516	71
支払利息	16	12
固定資産除却損	10	54
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	142	—
売上債権の増減額（△は増加）	11,611	27,694
たな卸資産の増減額（△は増加）	279	△1,951
商品化権前渡金の増減額（△は増加）	17	284
仕入債務の増減額（△は減少）	△9,633	△16,229
未払消費税等の増減額（△は減少）	108	△911
預り金の増減額（△は減少）	△34	232
その他	356	332
小計	14,750	10,607
利息及び配当金の受取額	183	210
利息の支払額	△23	△15
法人税等の支払額	△5,244	△7,112
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,666	3,690
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△406	△955
有形固定資産の売却による収入	4	4
無形固定資産の取得による支出	△686	△789
有価証券の取得による支出	—	△503
投資有価証券の取得による支出	△366	△400
出資金の払込による支出	△155	△404
貸付けによる支出	△243	△53
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,649	△162
関係会社株式の取得による支出	△315	△22
関係会社株式の売却による収入	200	7
その他	279	168
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,339	△3,111

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,209	11
長期借入金の返済による支出	△45	△42
社債の償還による支出	△757	△670
少数株主からの払込みによる収入	22	2
配当金の支払額	△1,646	△1,652
その他	△67	△45
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,702	△2,395
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,615	△1,821
現金及び現金同等物の期首残高	15,906	15,632
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,521	13,810

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	PS・ フィールド	モバイル・ フィールド	スポーツエン タテインメン ト・フィール ド	その他・ フィールド	計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高							
外部顧客に対する売上高	64,222	1,543	1,619	4,048	71,433	—	71,433
セグメント間の内部 売上高又は振替高	187	4	25	143	360	(360)	—
計	64,409	1,547	1,644	4,192	71,794	(360)	71,433
セグメント利益又は損失 (△)	10,507	287	△219	177	10,753	△53	10,699

(注) 1 セグメント利益の調整額△53百万円は、セグメント間取引の消去によるものです。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他・フィールド」において、連結子会社である株式会社円谷プロダクション及び株式会社デジタル・フロンティアの株式を取得しています。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては2,732百万円です。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	PS・ フィールド	モバイル・ フィールド	スポーツエン タテインメン ト・フィール ド	その他・ フィールド	計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高							
外部顧客に対する売上高	37,877	1,379	1,471	2,333	43,061	—	43,061
セグメント間の内部 売上高又は振替高	146	185	6	624	962	(962)	—
計	38,023	1,564	1,478	2,957	44,024	(962)	43,061
セグメント利益又は損失 (△)	229	41	△35	△183	52	△30	22

(注) 1 セグメント利益の調整額△30百万円は、セグメント間取引の消去によるものです。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。